

留 学 報 告 書

記入日: 2014 年 10 月 30 日



所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: サザンイリノイ大学カーボンデール校 現地言語: Southern Illinois University at Carbondale
留学期間	2013 年 8 月～2014 年 5 月
留学した時の学年	3 年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3 年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2014 年 5 月 20 日
明治大学卒業予定年	2015 年 3 月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期: 8-12 月 2 学期: 1-5 月
学生数	18,847 人
創立年	1869 年

留学費用項目	留学費用項目(ドル)	円	備考
授業料	0	円	
宿舍費		500,000 円	
食費		300,000 円	
図書費		30,000 円	Amazon で購入
学用品費		10,000 円	
教養娯楽費		円	
被服費		50,000 円	
医療費		10,000 円	
保険費		100,000 円	形態: 大学指定のものをリエゾンデスクで購入
渡航旅費		200,000 円	
雑費		円	
合計		1,200,000 円	

渡航関連

渡航経路: 仁川(韓国)、シカゴ

渡航費用

チケットの種類 往復チケット

往路 _____

復路 _____

合計 20 万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

リエゾンデスク

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 _____)

3)住居を探した方法:

あちらの事務室から連絡がきたので他は探さなかった。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

同じ値段を払えば学外できれいなアパートを探せると思いますが、寮の契約は1年なので途中で契約を破棄することもできずに1年間寮にいました。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した: 健康診断

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

CIE(Center for International Education)のオフィス

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

部屋の鍵を閉める、夜は一人で出歩かないなど。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の wifi は非常に不安定で電話しづらいことも多々ありました。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか? (例:現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

留学生向けのオリエンテーションで銀行には連れて行ってもらえます。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

特になし。

進路について

1) 進路	
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:	
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など	
明治大学の就職キャリア支援	
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)	
マルハニチロ株式会社。留学を含めたこれまでの経験や考え方を一番自分の言葉で伝えられたと思ったから。元々企業に行くつもりはなく財団からも内定を頂いていましたが、悩んでこちらを選びました。	
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)	
4年5月に帰国しましたが、マイナビやポストンキャリアフォーラム、一般企業の二次募集など帰国生向けの募集は非常に多かったように思います。開始時期が遅れるので、通常の就職活動に比べると忙しかったのかもしれませんが、その分企業も短期で選考を進めてくれたので、精神的な負担はあまりありませんでした。	
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。	
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。	
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 18 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Linguistic 101	言語学 101
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	Millard Bryon
授業内容	基本的な英語文法とレポートの書き方
試験・課題など	レポート 3 本とそれに向けた個々のリサーチが毎週
感想を自由記入	留学生しかいない授業だったので非常に授業内容は簡単。和やかな雰囲気だったので友人が増えた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
History of Black American	アフリカ系アメリカ人の歴史
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回
担当教授	Leonard Gadzekpo
授業内容	奴隷貿易から始まったアフリカ系アメリカ人の歴史
試験・課題など	3 回のレポートと最終試験に向けて自分が授業で学んだことをまとめる。グループプレゼン。
感想を自由記入	テスト内容も事前に発表されるので単位取得は問題ないが、アフリカ関連の授業を扱う先生がアフリカ出身なことが多く訛がきつくて当初はほとんど聞き取れなかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Sociology 108	社会学 108
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義と週1の講義
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	Gregory Maddox
授業内容	社会学入門で教養科目。
試験・課題など	3 回の小テストと2回のグループペーパーとプレゼン
感想を自由記入	1年生の履修者が多く大教室での講義だった。グループプレゼンはメンバーによって出来がかなり偏っていたように思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Lingusitic 100	言語学 100
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル
授業時間数	1週間に 50 分が 5 回
担当教授	毎週変わる
授業内容	毎週講師と扱うピックは変わったが、基本的には英語会話を練習する授業で書く、読むことにはあまり重きが置かれていない授業。
試験・課題など	なし
感想を自由記入	学生だけでなく地域の英語を勉強している人も一緒に授業を受けていたので、いろんな人に会えて楽しかった。日常会話で使う表現を学んだり、内容は基礎。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Communicating in small groups 261	小集団におけるコミュニケーション 261
科目設置学部・研究科	Communication and speech
履修期間	春学期
単位数	3
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回
担当教授	Julia Oros
授業内容	3 人から 12 人の集団を“小集団”とし、その中でのコミュニケーションのあり方を 5 人 1 組のグループワークを実際に行いながら学ぶ。
試験・課題など	5 回のグループワークとその内容をプレゼン
感想を自由記入	授業外でグループのメンバーと連絡を取り合い、ミーティングを毎週何時間もする必要があったため、時間をかなり割いた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Black Leaders 306		黒人のリーダー達 306	
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義		
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回		
担当教授	Frank Chipasula		
授業内容	アメリカにおける黒人リーダー達の歴史の講義とディスカッション		
試験・課題など	3回のレポートと最終試験としてグループプレゼン		
感想を自由記入	黒人の歴史に関する映像や映画を見て、クラス全体でディスカッションするものだったが、自分以外が先生含めて黒人だったので、発言に気を使った。お互いの意見に偏りがあることを理解するように努めるようになり、講義以外のところからも学ぶことができた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Sociology 223		社会学 223	
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Jessica Barnhill		
授業内容	女性学入門、フェミニズム		
試験・課題など	レポート 3 回と毎授業前に課題をやったかの確認テスト		
感想を自由記入	課題が毎回授業前にあったがそのためにも予習を徹底できたので授業には容易についていけた。教科書も多岐に渡った内容だったので、広く浅くではあったが女性学を学べたと思う。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Linguistic 102		言語学 102	
科目設置学部・研究科	リベラルアーツ		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 90 分が 2 回		
担当教授	Millard Bryon		
授業内容	Linguistic 101 で学んだことを基礎に、より学術的なレポートを書くための英語基礎授業		
試験・課題など	3 回のレポートとそれに伴うリサーチ		
感想を自由記入	前レベルに比べると書く量が格段に増え、授業で学んだ知識を使うだけでは評価してもらえずに、大学のライティングセンターに通うようになった。他授業で学んだことを活かしてレポートを書くことができて楽しかった。		

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2012年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	夏期休業期間を使い海外インターンシップへ
10月～12月	10/11 月で3回 TOEFL を受験、11 月末に出願校決定し選考を受ける
2013年 1月～3月	
4月～7月	VISA 申請、寮の確保、履修登録
8月～9月	8 月半ば 出国、オリエンテーション 8 月最終週 授業開始
10月～12月	10 月 中間考査、秋休み 11 月 サンクスギビングデー 12 月 最終考査
2014年 1月～3月	1 月 冬休み 3 月 中間考査、春休み
4月～7月	5 月 1 週目最終試験 帰国
8月～9月	就職活動
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	入学当初から発展途上国に興味があり、2年次の夏期休暇を利用して海外インターシップに行ったことが留学を決めたきっかけでした。現地で留学帰りの学生達と話してその魅力を感じ、これから開発学を学ぶのであれば英語は必須だと思い、英語圏に留学しようと決意しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	もっと話す練習をしておけば良かったと授業が始まってから思いました。書く読む課題は自宅に持ち帰ってすることができますが、その場で発言したり議論に参加することはそうはいかず、当初何もできませんでした。簡単なことでもいいのですぐ口に出せるように、会話の練習を事前にやっておくべきでした。
この留学先を選んだ理由	明治大学ではアフリカ地域研究のゼミに属していたので、それに関連した勉強ができる大学を探したところ、アフリカンアメリカンの研究が盛んなサザンイリノイ大学を見つけました。また他の大学と比べると日本人留学生も少なく、英語を使う機会が多く得られると考えて、出願しました。
大学・学生の雰囲気	イリノイ州の南にあるサザンイリノイ大学は周囲に観光地などもなく、本当にその大学を中心としてできている都市です。田舎なので少し買い物に行く時などは足に困ることはありましたが、その代わり町の人は非常に親切で留学生にも慣れており、スーパーや銀行など地域の場でも分からないことがあれば手助けしてもらったように思います。
寮の雰囲気	私が住んでいた University Hall は部屋は個室でしたが、フロアでのミーティングや寮全体での映画鑑賞会、ハロウィンにはお化け屋敷をするなど、終始ワイワイしている印象でした。しかしテスト期間は静かにするようこの張り紙が張られて、部屋で勉強するのにも支障はありませんでしたし、メリハリのついた生活をするのができたと思います。
交友関係	1学期目は、友達を作ることはこんなに難しいのかと悩むことばかりでした。英語に自信がなかった私は、当初他の国からの留学生同士とよく一緒に過ごしていましたが、そのせいで現地の学生と疎遠になってしまったりとうまく行きませんでした。しかし後期からは前期では顔見知り程度だった人とジムで仲良くなったり、オフィスの手伝いを通して仲良くなったりと、だんだんと友人も増えていきました。
困ったこと、大変だったこと	私は寮に住んでいましたが、各休みごとに部屋を出なくてはいけないのは手間がかかりました。一ヶ月あった冬休みは2週間旅行をした後、友人宅を点々として乗り切りましたが、その間部屋に戻ろうとすると課金されてしまうので注意が必要です。
学習内容・勉強について	全授業に共通して言えることは、発言が何よりも重視されていたことです。特に後期に履修していたコミュニケーションの授業では毎授業グループプレゼンがあり、自分だけその場でうまくまとめることができずに恥ずかしい思いをすることも多々ありました。しかし自分の考えを相手に伝えることを諦めなければ、相手も汲み取ろうと努めてくれることを知りまし、伝えようとする必死に考えをまとめるようにもなりました。
課題・試験について	課題は各授業ともに日本に比べると多い印象でした。週2、3回授業があるので週末まとめて片付ける訳にも行かず、授業後にそのまま図書館に行ってやるようになっていました。日々の課題が多かった分、試験前に徹夜で勉強する必要はほとんどありませんでした。
大学外の活動について	テニスクラブに週3で行っていました。元々テニスをしたことがあったので練習は問題なく参加することができ、それがきっかけで友人が増えました。
留学を志す人へ	私は3年次に留学をすることとなりましたが、就職活動を理由に留学を諦める人はたくさんいました。出発時、私は進路を決めかねていましたし、不安がなかった訳ではありませんが、帰国して就職活動を半年遅れで始めても無事終えることができました。先が見えない不安を理由に今やりたい、と思えることに挑戦しないのは本当にもったいないです。もし迷っている人がいるのなら、目の前にある機会に挑戦すべきだと思います。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	グループ ミーティング	授業	課題	授業	ライティング センターで 添削してもらう	ジム
午後	課題	授業	課題	授業	課題	テニスクラブ	グループ ミーティング
					コーヒーアワー (留学生交流会)		課題
夕刻		テニスクラブ	買い物	テニスクラブ		外食	
夜	ジム		ジム	映画鑑賞会	映画鑑賞会		